

この度は、エクシードシステム製品をご利用頂きまして、誠に有り難うございます。

目次

1. ESBarCodeとは
 - 1.1 ESBarCodeの特徴
 - 1.2 使用可能なバーコード
 - 1.3 動作環境
 - 1.4 ご利用前の注意点
2. 使ってみる
 - 2.1 インストール手順
 - 2.2 ユーザID、ライセンスIDの登録方法
 - 2.3 アンインストール手順
 - 2.4 ExcelからESBarCodeを使用する
 - 2.5 試用版製品の制限事項
3. バーコードの設定
 - 3.1 設定項目
4. 高度な使い方
 - 4.1 マクロ(VBA)からESBarCodeを使う
 - 4.2 付属アドインの機能
 - 4.3 アドインによるチェックデジット検証
 - 4.4 アドインによるチェックデジット計算
5. うまく動作しないときは…
 - 5.1 トラブルQ&A
6. ソフトウェアライセンスについて
 - 6.1 ライセンス購入と価格
 - 6.2 ライセンス発行までの流れ
 - 6.3 ユーザー登録
7. 領収証について
 - 7.1 領収証発行の注意点
8. サポート
 - 8.1 不具合報告・ご質問などについて
 - 8.2 お問い合わせ
9. 各社の商標等
10. 付録
 - 10.1 Office2007でESBarCodeを使う
 - 10.2 Office2000でESBarCodeを使う

■ 1.1 ESBarCodeとは

■ ESBarCodeの特徴

Microsoft® Excel®またはWordを使用して、商品ポップ・商品ラベル・バーコードシート等、バーコード付きのドキュメントを簡単に作成することができます。

【 簡 単 】

- ・貼り付けてデータを入力するだけでバーコードが作成できます。
- ・VBAやマクロを使わずにExcel®のセルとバーコードの連携ができます。
※VBAからの制御もできます。

【 綺 麗 】

- ・拡大縮小しても読み取りエラーの少ない綺麗なバーコードが印刷できます。

【 便 利 】

- ・付属のアドインにより、チェックデジットの計算や、入力データのチェックなど、入力サポート機能が利用できます。
※アドインはライセンスが無くても制限無く利用できます。

■ 1.2 使用可能なバーコード

■ バーコード形式

- 標準JAN (13桁)
- 短縮JAN (8桁)
- UPC-A (12桁)
- UPC-E (8桁)
- ITF 2of5 (2桁以上)
- CODE39 (1桁以上)
- NW-7 CODABAR (1桁以上)
- 新雑誌コード:JAN13 Add-on5(13桁 + 5桁)

■ チェックデジット形式

- 手動(なし)
- モジュラス10ウエイト2ルーンズ方式 (M10W2R)
- モジュラス10ウエイト2 (M10W2)
- モジュラス10ウエイト3 (M10W3)
- モジュラス11ウエイト2~7 (M11W2~7)
- モジュラス16 (M16)
- モジュラス43 (M43)
- 7チェック (7DR)
- 7チェック (7DSR)
- 9チェック (9DR)
- 9チェック (9DSR)
- モジュラス10ウエイト3,9(M10W3,9)

■ 1.3 動作環境

■ コンピュータの最低構成 …()内は推奨環境

インテル®または互換プロセッサ 500MHz (1GHz)以上

システム搭載メモリー 128MB (512MB以上)以上

VGA(XGA)以上の解像度および 256色 (1677万色) 以上の出力装置

300dpi(600dpi)以上のカラープリンター(レーザープリンタ)

※CPU速度、メモリー容量、バーコード配置数によっては実用的な運用ができない場合もございます。

■ システム要件

Microsoft®Windows® XP/Server2003/Vista(x32/x64)/7(x32/x64)

※Windows 98SE/Me/NT/2000はサポート対象外となります。

※2012年9月時点ではWindows 8に対応しておりません。

Microsoft® InternetExplorer®6.x 以降

Microsoft® Office2000~2010(32bit版のみ)製品のExcel®またはWord

※Office 97はサポート対象外となります。

インターネットが利用できる環境(アップデートサービスなどで必要)

上記の環境でシステムが正常に動作している事。

■ Windows®Vista/ Windows®7対応状況

	インストール/アンインストール		バーコード作成	
	制限ユーザ	管理者	制限ユーザ	管理者
Windows®Vista	×	○ (UAC特権)	○	○
Windows®7	×	○ (UAC特権)	○	○

※インストール時のみ、UACの特権が必要です

■ 1.4 ご利用前の注意点

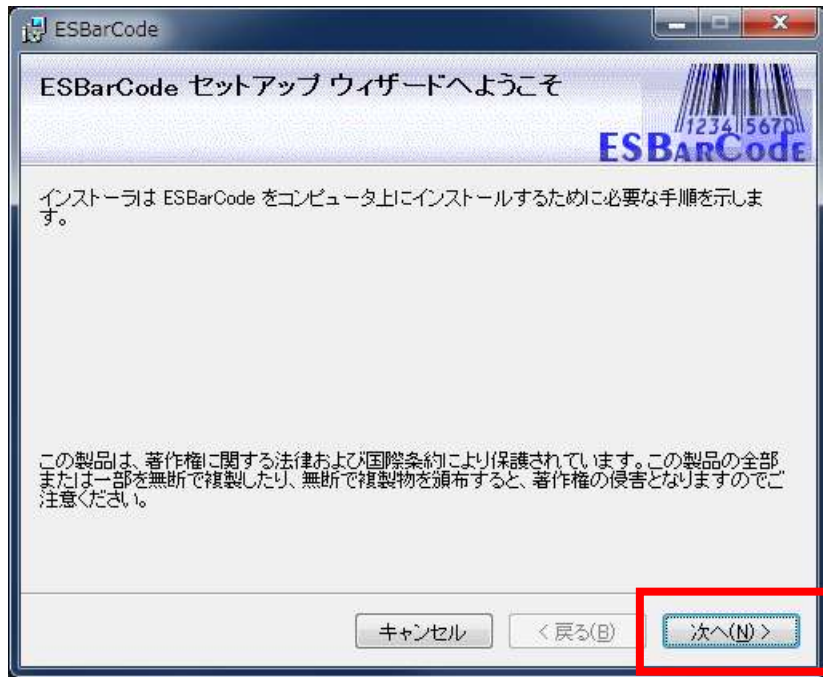
・ ESBarcodeを利用して作成したバーコードを使用して作成したバーコードラベルを用いて製品などを管理する前に、必ず十分にテストを実施してからご判断下さい。

・ バーコードのサイズには目安となる基準があります。バーコードのサイズを指定する際は、バーコードやバーコードリーダの仕様を充分にご確認の上でご指定下さい。

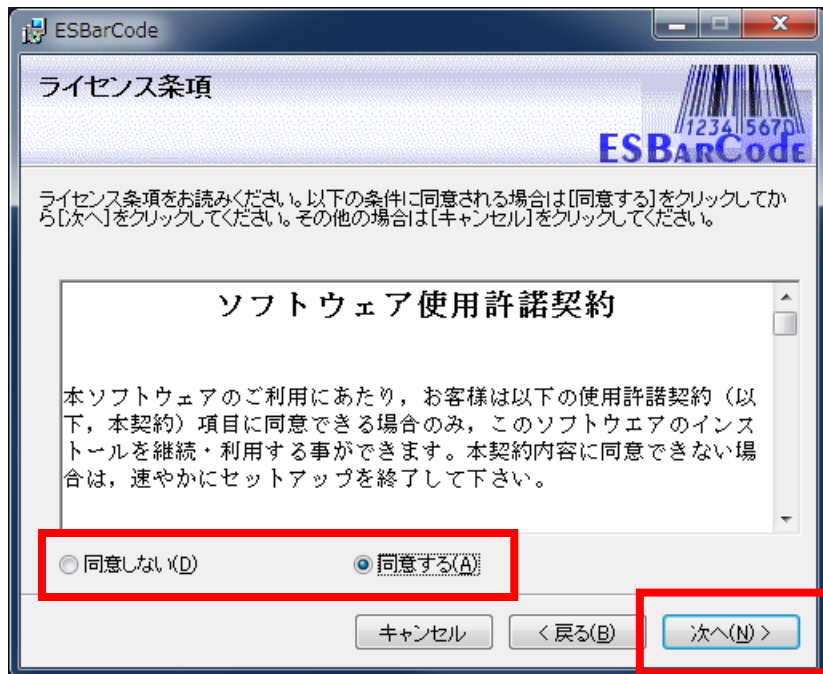
※本ソフトウェアを使用することによって発生したいかなる問題・損害等に関して、エクシードシステムは一切の責任を負いません。（ソフトウェア使用許諾契約第6項）

■ 2.1 インストール手順

① Setup.exeを実行し、「次へ」を押します。

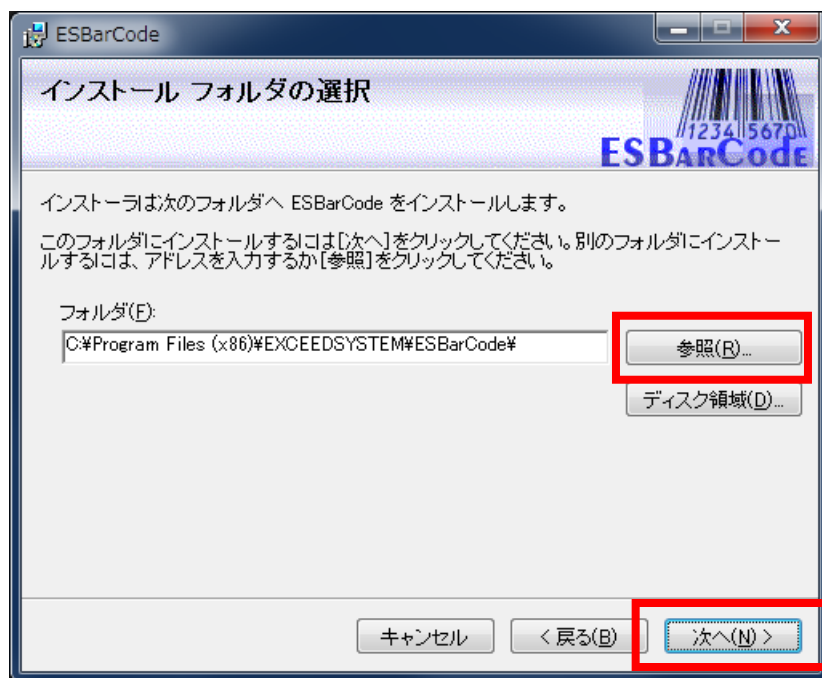


② ソフトウェア使用許諾契約を良く読み、同意できる場合は「同意する」を選択して「次へ」を押します。

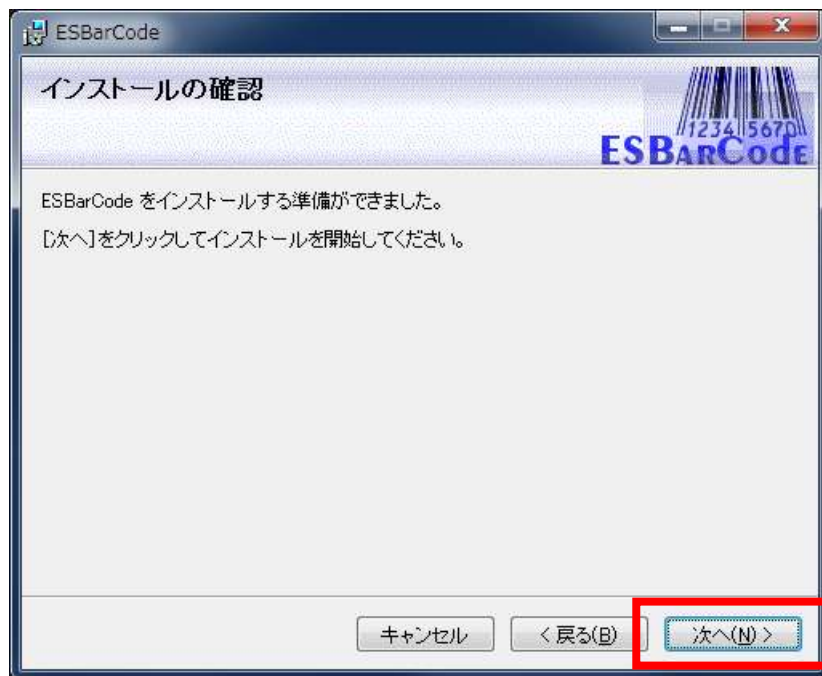


■ 2.1 インストール手順

③ インストール先を選択します。通常はデフォルトのまま変更する必要はありませんが、変更する場合は「参照」を押して場所を選択して下さい。

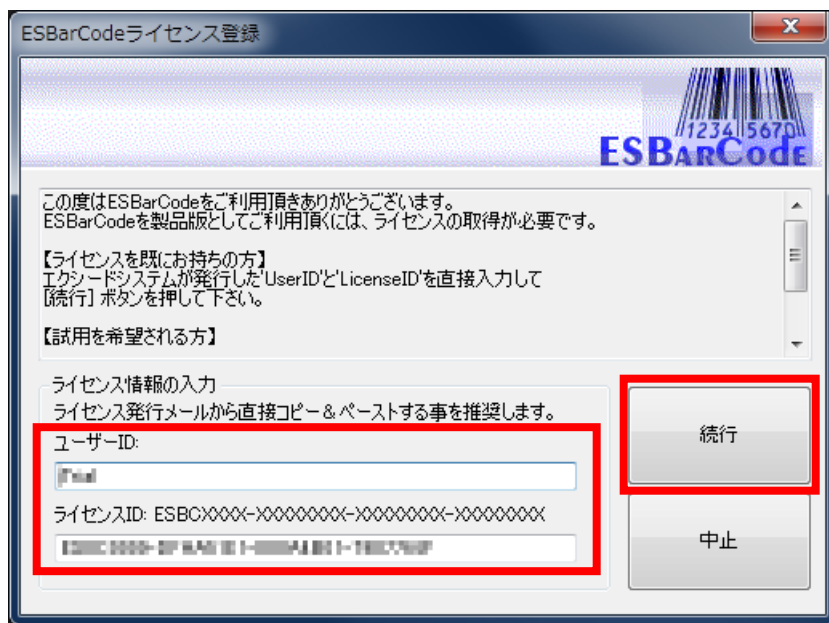


④ 「次へ」を押すとインストールが開始されます。

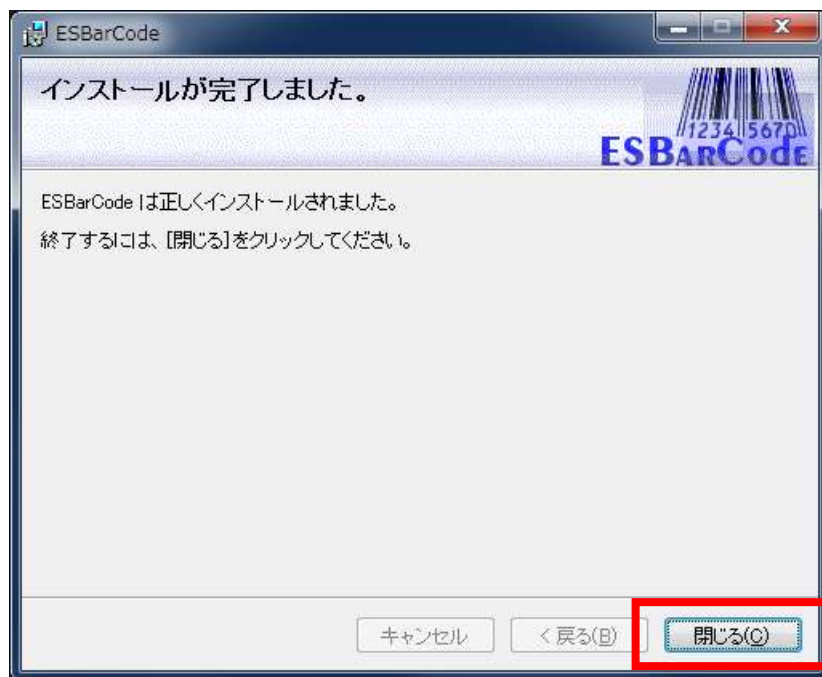


■ 2.1 インストール手順

⑤ 既にライセンスをご購入されている場合は、ユーザーIDとライセンスIDを入力し、「続行」を押します。(試用の場合は、デフォルトのままです。)

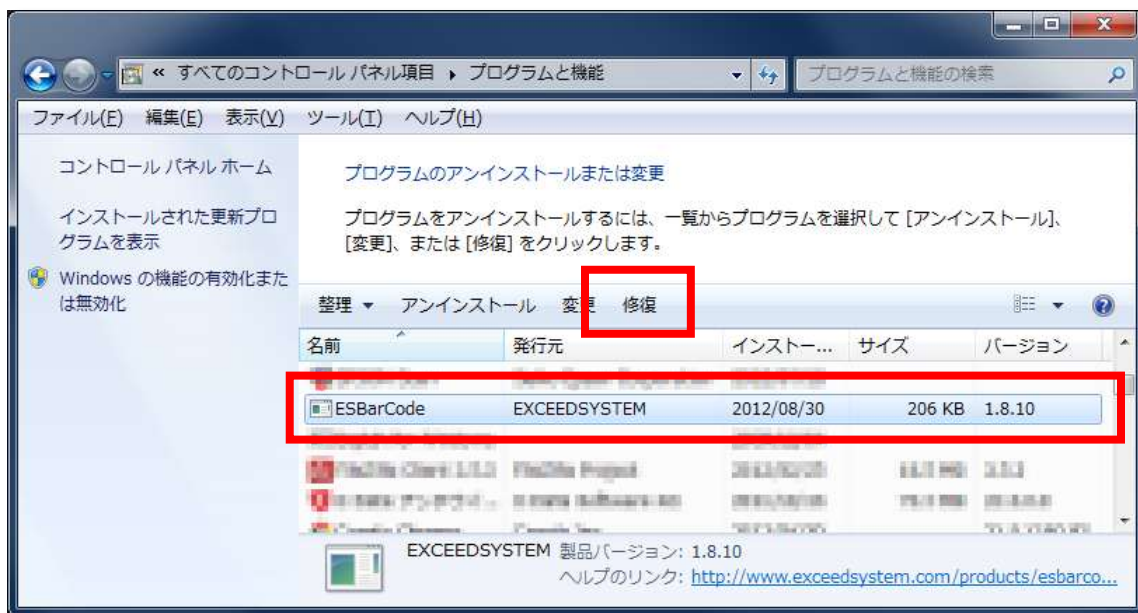


⑥ インストールが完了したら「閉じる」を押してインストールを終了します。

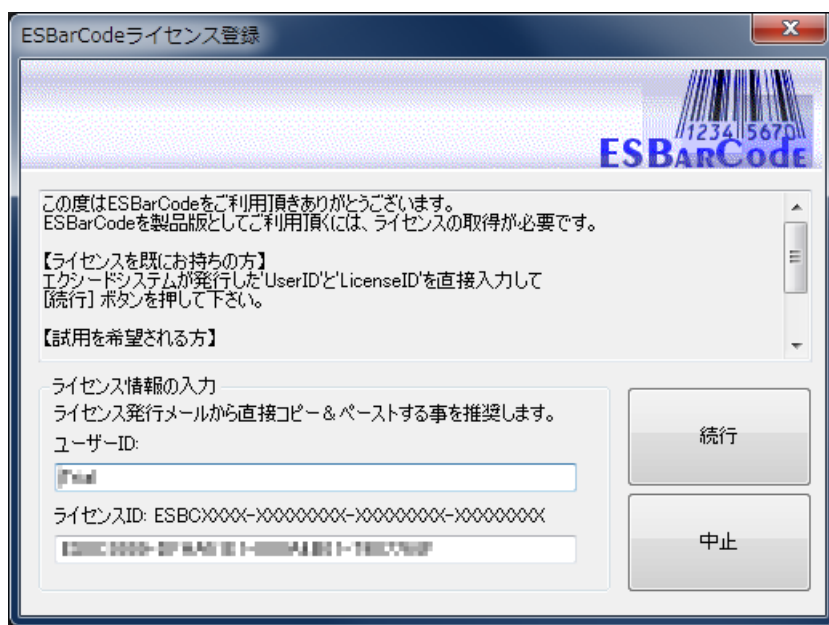


■ 2.2 ユーザID、ライセンスIDの登録方法

① コントロールパネルから「プログラムと機能 (アプリケーションの追加と削除)」を起動し、その中からESBarCodeを選択して「修復」を押します。

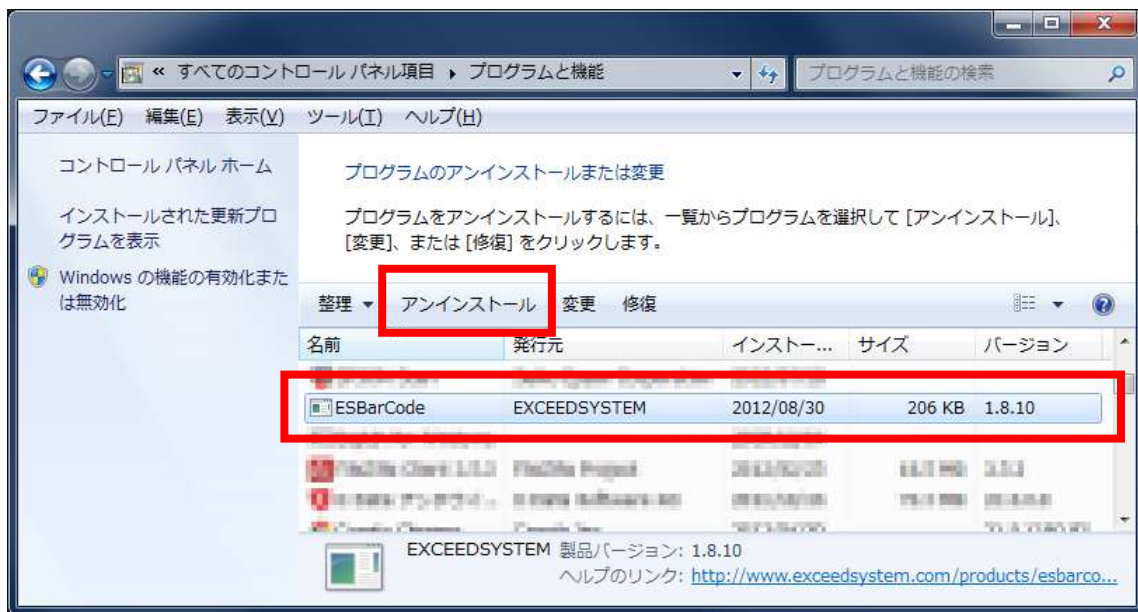


② ライセンス登録ダイアログが表示されたら、ESBarCodeのインストール手順の⑤を参照して、ライセンスIDを入力します。

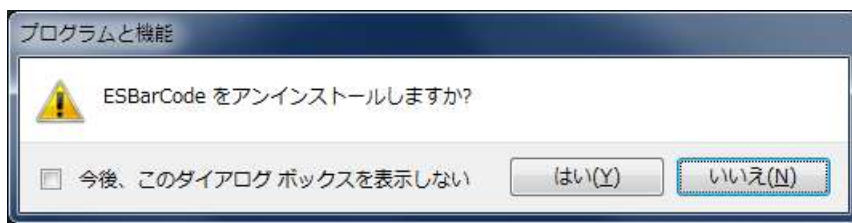


■ 2.3 アンインストール手順

① コントロールパネルから「プログラムと機能(アプリケーションの追加と削除)」を起動し、ESBarCodeの「アンインストール」を押します。



② アンインストール確認メッセージが表示されたら、「はい」を押すことでアンインストールが開始されます。取り消す場合は「いいえ」を押します。

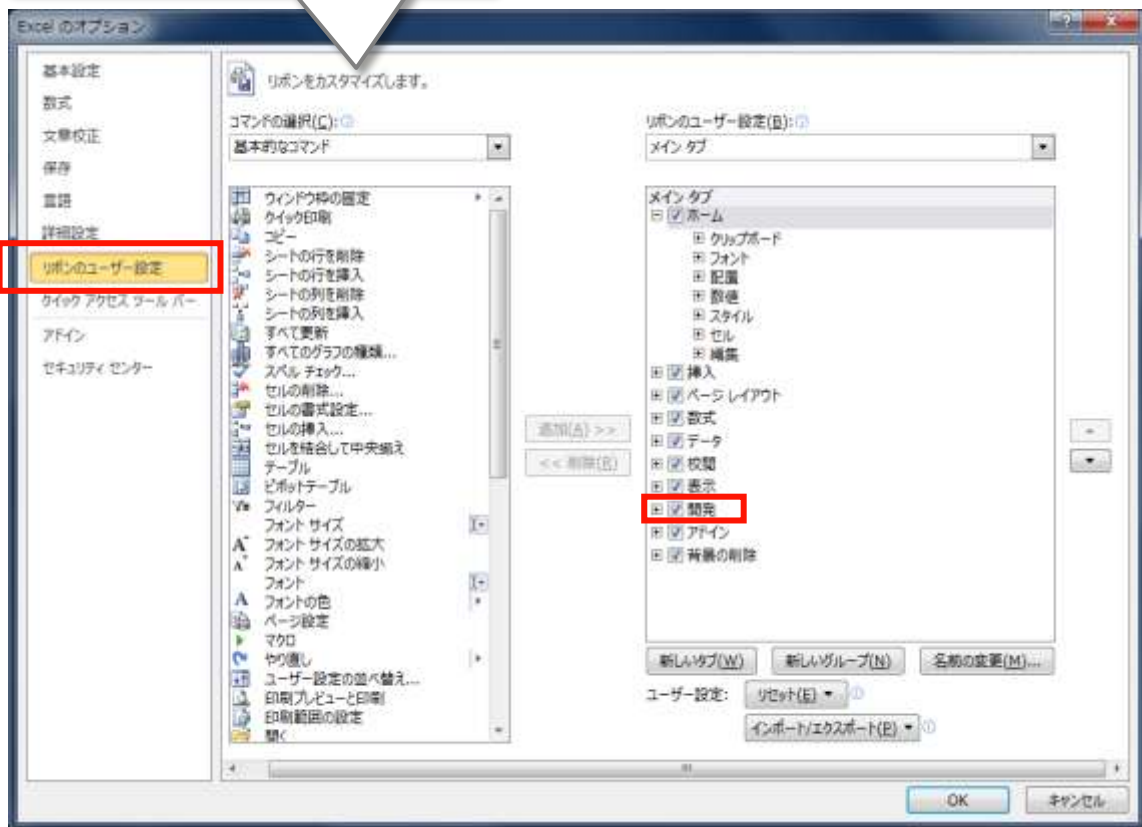
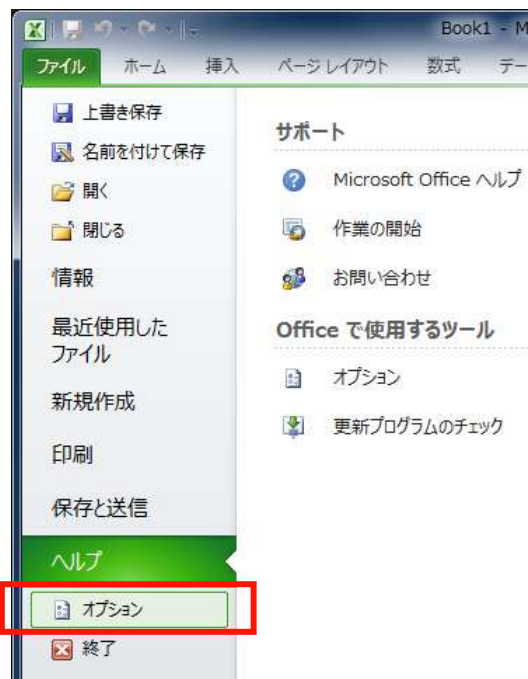


■ 2.4 Excel®からESBarcodeを使用する

～ Office2010 ～

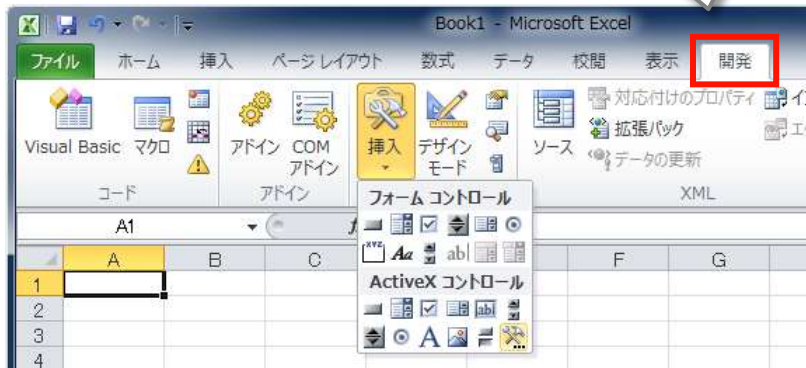
① Excelを起動し、「ファイル」から「オプション」を押します。

② 「リボンのユーザー設定」にて「開発」にチェックを入れます。



■ 2.4 Excel®からESBarcodeを使用する

③ 「開発」タブを選択し、「コントロール」の「挿入」を押します。



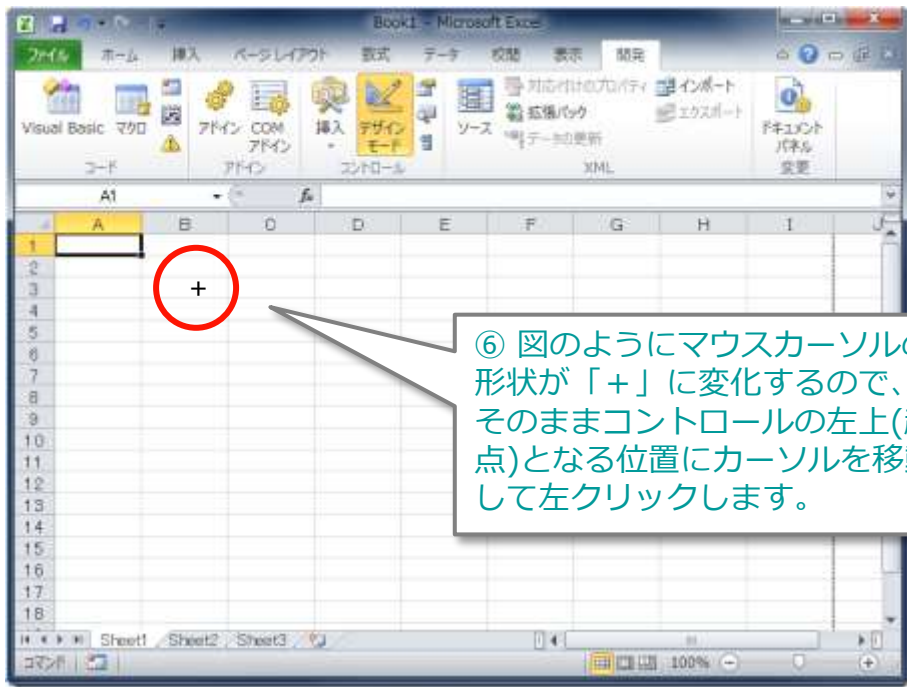
④ 「ActiveXコントロール」の中から「コントロールの選択」を押します。



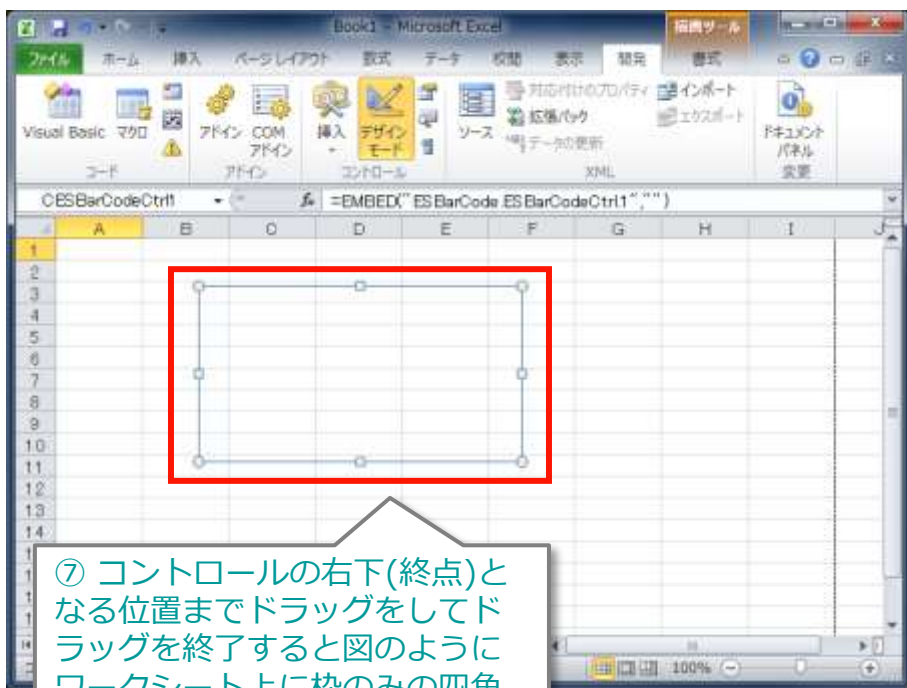
⑤ 「コントロールの選択」の中から「CESBarcodeCtrl Object」を選択して「OK」を押します。



■ 2.4 Excel®からESBarCodeを使用する



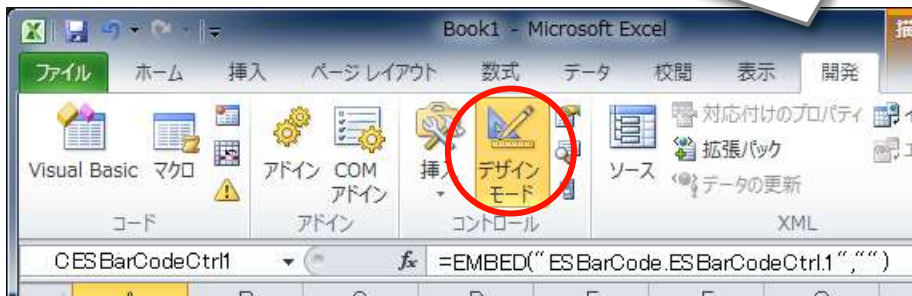
⑥ 図のようにマウスカーソルの形状が「+」に変化するので、そのままコントロールの左上(起点)となる位置にカーソルを移動して左クリックします。



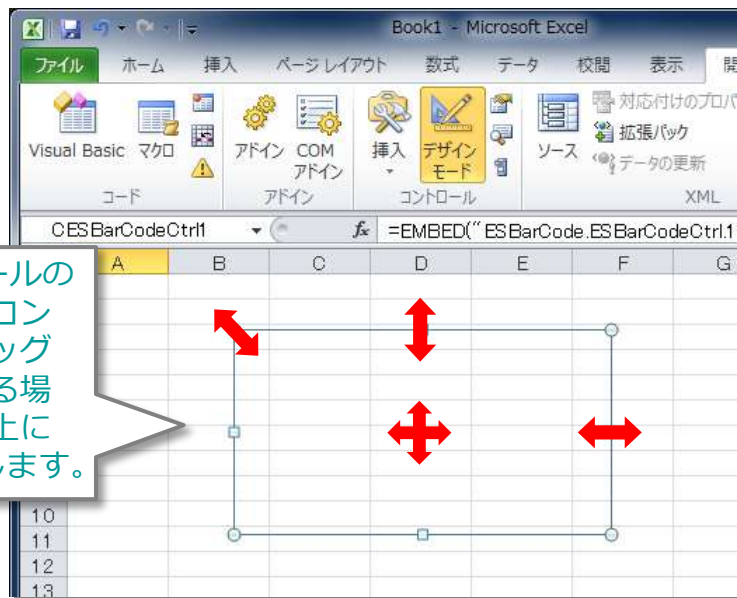
⑦ コントロールの右下(終点)となる位置までドラッグをしてドラッグを終了すると図のようにワークシート上に枠のみの四角形 (ESBarCodeコントロール) が配置されます。

■ 2.4 Excel®からESBarcodeを使用する

⑧ ESBarcodeのコードデータや位置、サイズ等を変更する場合は、「開発」タブの「デザインモード」を押してデザインモードにします。



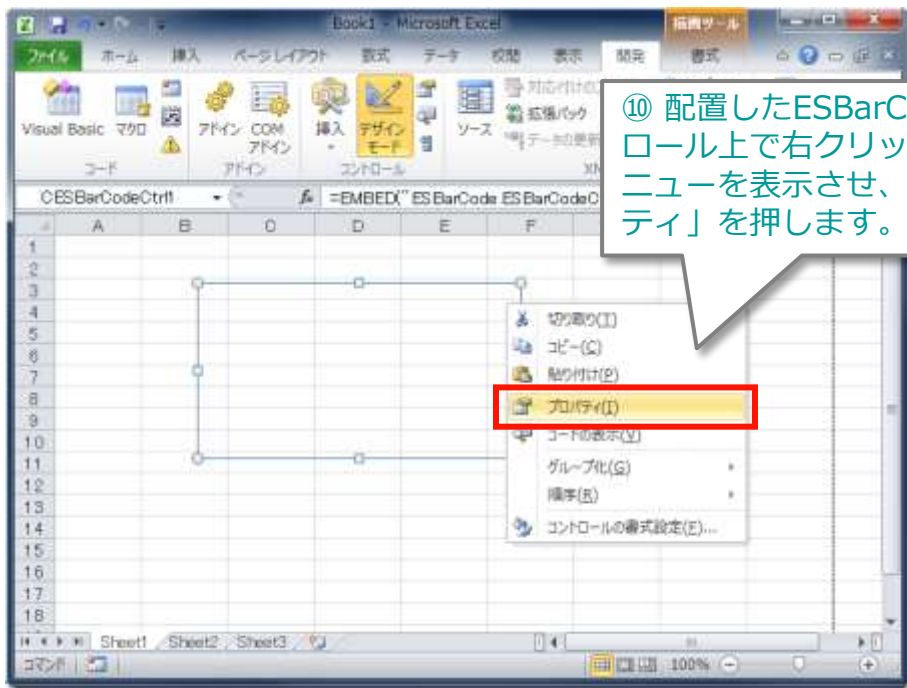
⑨ ESBarcodeコントロールの位置を調整する場合は、コントロールを選択してドラッグします。サイズを変更する場合は、コントロールの枠上にある“○□”をドラッグします。



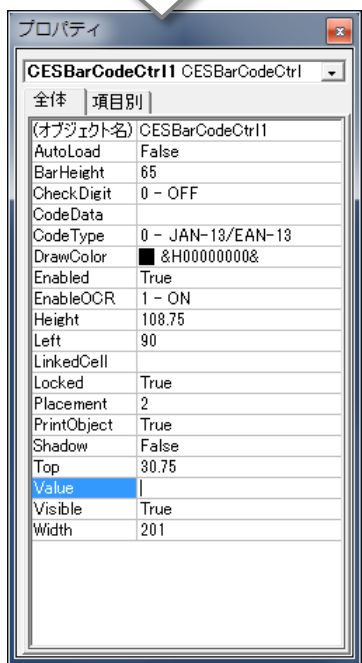
[!] ご注意

※コントロールの配置後は、必ず縦横のサイズを変更してください。配置直後のサイズで使用すると、印刷時に位置やサイズがずれる場合があります。

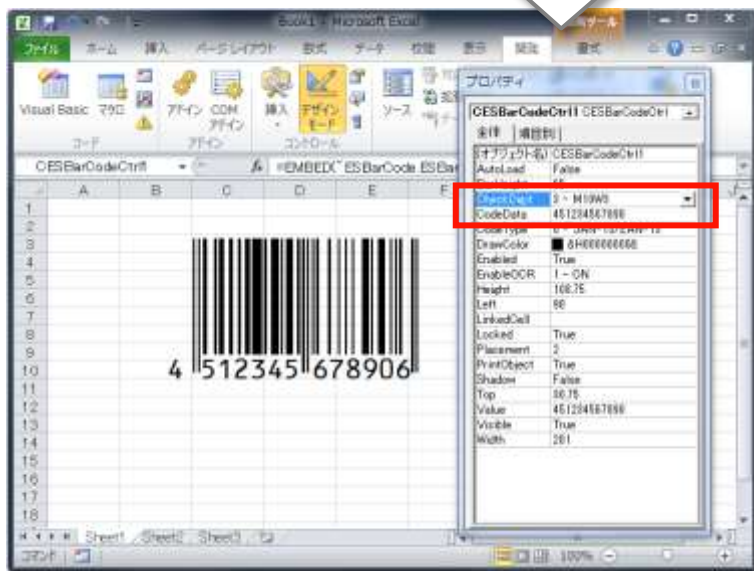
■ 2.4 Excel®からESBarcodeを使用する



⑪ プロパティウインドウが表示されたら、バーコードを表示するための各項目を設定します。



⑫ 例として「CheckDigit」に "3-M10W3"、「CodeData」に "451234567890"を設定すると、以下のとおりバーコードが表示されます。
※規格が一致しないデータを指定した場合、バーコードは表示されません。



■ 2.5 試用版製品の制限事項

試用版ライセンスの制限事項について

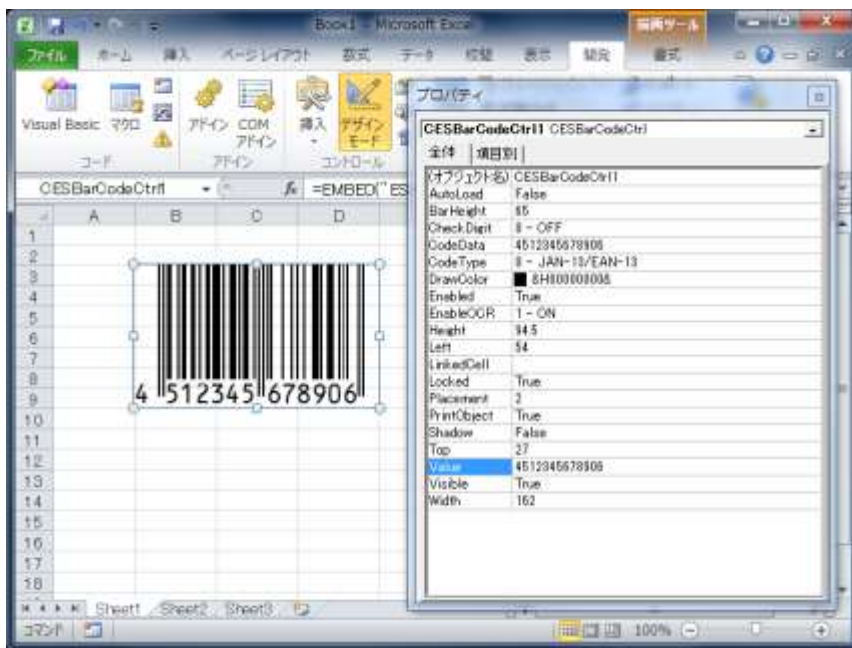
※試用版ライセンスではバーコードに赤い斜線が挿入されます。
(多くのバーコードリーダーでは読み取りに赤色光を使用しているためカラー印刷されたものであれば支障無く読み取れます。)

製品版ライセンスをご購入頂くと制限無くご利用頂けます。

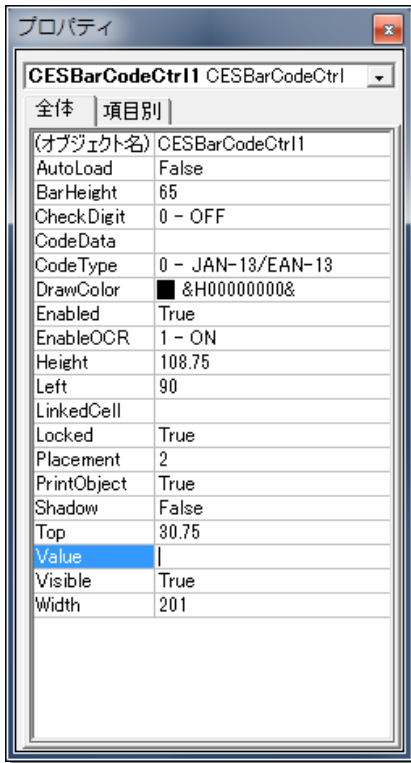
■ 試用版動作時



■ ライセンス版動作時



■ 3.1 設定項目



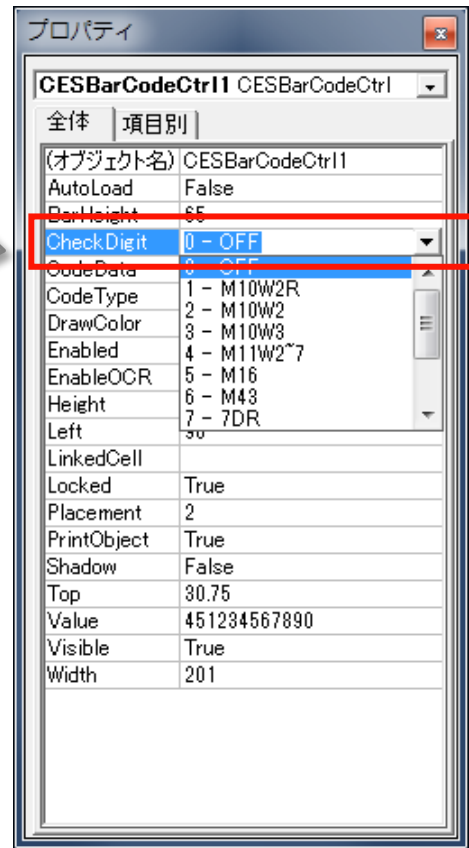
右表はESBarcodeの各プロパティの機能一覧を表しています。色付きの部分はESBarcode固有の実装を表していますが、それ以外のプロパティはExcel標準実装のプロパティですので、詳細についてはExcelVBAのヘルプ等をご参照下さい。

プロパティ	機能
AutoLoad	シートを開いた際、OLEオートメーションを自動で読み込むかを設定します。ESBarcodeはActiveXコントロールですので無視されます。(常にTrue扱い。)
BarHeight	バーの高さをPixel単位で指定します。コントロールを伸縮した時にOCRテキストとのデザイン的なバランスを整える為に使用します。
CheckDigit	バーコードのチェックデジットの指定方法を選択します。
CodeData	バーコードのコードデータを設定します。
CodeType	バーコードのコード種類を選択します。
DrawColor	コントロールを描画する色を指定します。
Enabled	コントロールを使用するか、しないかを選択します。
EnableOCR	OCRテキストを表示するか、しないかを選択します。
Height	コントロールの高さをPixel単位で設定します。
Left	シート左端からのmm単位の位置を設定します。
LinkedCell	コードデータをExcelのセルとリンクさせたいとき、セルの番号を指定します。例えば、“sheet1!A1”と入力すると、“sheet1”の“A1”に入力した値とリンクします。
Locked	コントロールのロック状態を設定します。
Placement	コントロールとセルの位置関係を設定します。
PrintObject	コントロールを印刷するかしないかを設定します。
Shadow	コントロールに影を付けます。バーコードの読み取りに支障がでますので、ESBarcodeでは使用しないで下さい。
Top	シート上端からのmm単位の位置を設定します。
Value	LinkedCellが指定されている場合、CodeDataとリンクします。ここに入力した値はリンクしたセルに反映されます。
Visible	コントロールの表示状態を選択します。
Width	コントロールの幅をPixel単位で選択します。

■ 3.1 設定項目

ESBarcodeではバーコードのコードデータから自動的にチェックデジットを算出することができます。チェックデジットの自動算出を使用する場合は、CodeDataにチェックデジットを除いたデータを入力します。

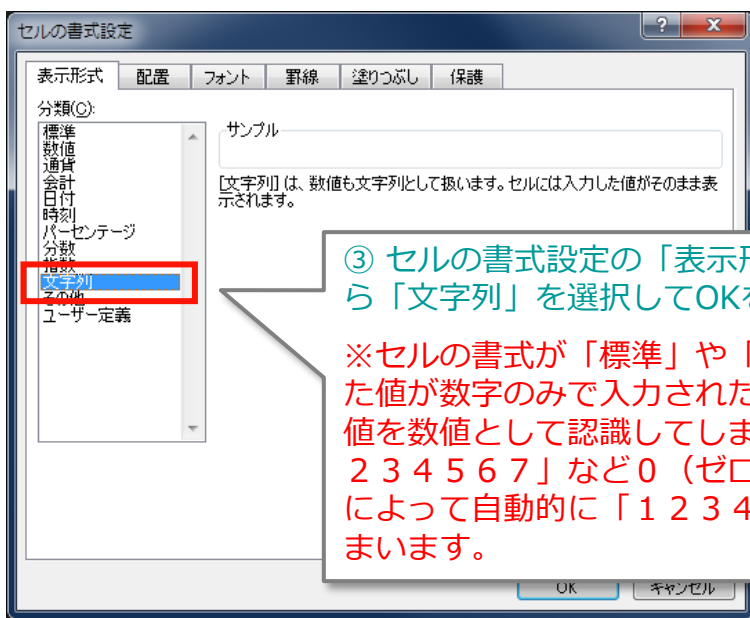
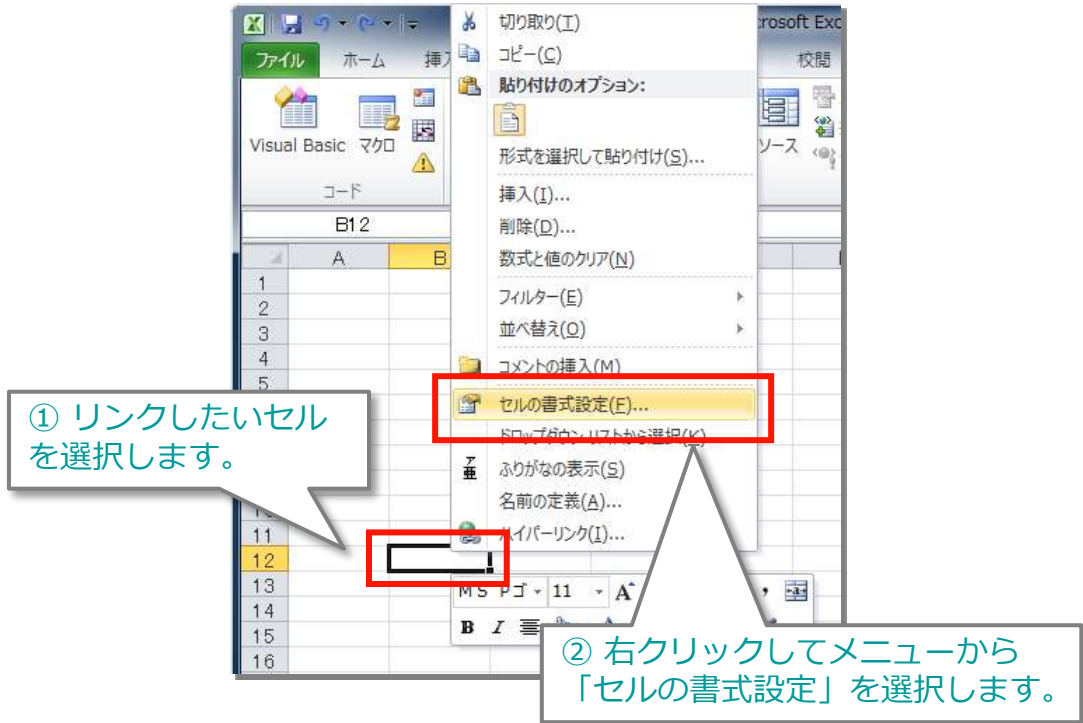
使用できるチェックデジットの種類はバーコード種類や用途などによっても様々です。詳しくは各コードの仕様等をご確認下さい。



一般的なチェックデジット	
JAN13/JAN8	常にM10W3を使用します。
UPC-A/UPC-E	常にM10W3を使用します。
ITF	特に必要ありませんが、使用する場合はM10W3を使用します。そのほか、7DR/7DSR/9DR/9DSR/M10W2/M10W3なども使用できます。
CODE39	特に必要ありませんが、M43を使用する場合があります。
NW-7	特に必要ありませんが、7DR/7DSR/9DR/9DSR/M16を使用する場合があります。
JAN13AddOn5	常にM10W3を使用します。アドオン部分はM10W3,9固定で変更できません。

■ 3.1 設定項目

ESBarCodeでは、ExcelVBA等の知識などが全くなくても、「LinkedCell」プロパティにセル名を設定することで、指定したセルに入力された値を用いたバーコードの作成が可能です。



■ 3.1 設定項目

The screenshot shows the Microsoft Excel interface with a barcode control on a worksheet. The barcode is located in cell B12. The properties window for the barcode control is open, showing the 'LinkedCell' property set to 'B12'. The worksheet formula bar shows the formula: `=EMBED("ES BarCode.ES BarCode", "B12")`.

④ バーコードと連動させたいデータを入力するセルの番号"B12"を「LinkedCell」プロパティに入力します。
※他のシートとリンクさせたい場合は、「シート名!セル番号」形式で入力して下さい。

The screenshot shows the Microsoft Excel interface with the barcode control on a worksheet. The cell B12 is selected, and the value '4512345678906' is entered into the formula bar. The barcode on the worksheet displays the corresponding code.

⑤ 「LinkedCell」プロパティで指定されたセルにコードデータを入力すると、その値がバーコード表示に反映されます。

■ 4.1 マクロ(VBA)からESBarCodeを使う

ESBarCodeの機能は、マクロ(VBA)からも操作することができます。

Excelシート上に貼りつけたESBarCodeをVBAから操作する場合は、
シート名.CESBarCodeCtrlコントロールの番号.プロパティ名
でアクセスする事ができます。

【シート1のボタン1を押したときにデータをセットするサンプル】

```
Private Sub CommandButton1_Click()  
    'コードデータはVariant型で渡します  
    Dim newData As Variant  
    'コードデータに"451234567890"をセット  
    newData = "451234567890"  
    'バーコードタイプは 0:JAN13/EAN13  
    Sheet1.CESBarCodeCtrl1.CodeType = 0  
    'チェックデジットタイプは 3:M10W3  
    Sheet1.CESBarCodeCtrl1.CheckDigit = 3  
    '新しいコードデータをセット  
    Sheet1.CESBarCodeCtrl1.CodeData = newData  
End Sub
```

【 ESBarCodeオブジェクトを生成するサンプル】

```
Dim obj as Object  
'オブジェクト生成  
Set obj = CreateObject("ESBarCode.ESBarCodeCtrl.1")  
'オブジェクト破棄  
Set obj = Nothing
```

■ 4.1 マクロ(VBA)からESBarCodeを使う

ESBarCodeコントロールのプロパティ		
プロパティ	型	機能
BarHeight	Long	バーの高さ = 20~1000 (OCRあり時の高さ)
CheckDigit	Long	チェックデジットタイプ指定値 M10W2R = 1 M10W2 = 2 M10W3 = 3 M11W2_7 = 4 M16 = 5 M43 = 6 7DR = 7 7DSR = 8 9DR = 9 9DSR = 10 M10W3,9 = 11
CheckDigitString	String	CheckDigitで指定されたCodeDataのチェックデジット文字 (出力専用)
CodeData	Variant	バーコードデータ文字列
CodeType	Long	バーコードタイプ指定値 JAN13 = 0 JAN8 = 1 UPCA = 2 UPCE = 3 ITF = 4 CODE39 = 5 NW7 = 6 JAN13AddOn5 = 7
DrawColor	OLE_COLOR	バー描画色 = RGB(Red,Green,Blue)
EnableOCR	Long	OCRなし = 0 OCRあり = 1
Value	Variant	CodeData同様です。 ※通常はCodeDataを使用して下さい。

■ 4.2 付属アドインの機能

付属のアドインを使用すると、入力データのチェックデジットを計算したり、検証することができる機能を使用することができます。

- ① Excelの「開発」タブから「アドイン」を選択します。
- ② 「参照」を押して"ESCalCD.xla"を選択します。

EXCELアドオン「ESCalCD.xla」はESBarcodeインストールフォルダにインストールされています。※デフォルトでは
"C:¥Program Files(x86)¥EXCEEDSYSTEM¥ESBarcode¥"

ESCalCDアドインでは、現在以下の関数が使用できます。

【チェックデジット整合性チェック関数】

IsM10W2R(CodeData as Variant) As Boolean

IsM10W2(CodeData as Variant) As Boolean

IsM10W3(CodeData as Variant) As Boolean

IsM11W2_7(CodeData as Variant) As Boolean

IsM16(CodeData as Variant) As Boolean

IsM43(CodeData as Variant) As Boolean

Is7DR(CodeData as Variant) As Boolean

Is7DSR(CodeData as Variant) As Boolean

Is9DR(CodeData as Variant) As Boolean

Is9DSR(CodeData as Variant) As Boolean

IsM10W3_9(CodeData as Variant) As Boolean

引数 : CodeData チェックデジットを含むコードデータ

戻り値 : True = 一致 , False = 不一致

■ 4.2 付属アドインの機能

【チェックデジット文字取得関数】

CalcM10W2R(CodeData as Variant) As String

CalcM10W2(CodeData as Variant) As String

CalcM10W3(CodeData as Variant) As String

CalcM11W2_7(CodeData as Variant) As String

CalcM16(CodeData as Variant) As String

CalcM43(CodeData as Variant) As String

Calc7DR(CodeData as Variant) As String

Calc7DSR(CodeData as Variant) As String

Calc9DR(CodeData as Variant) As String

Calc9DSR(CodeData as Variant) As String

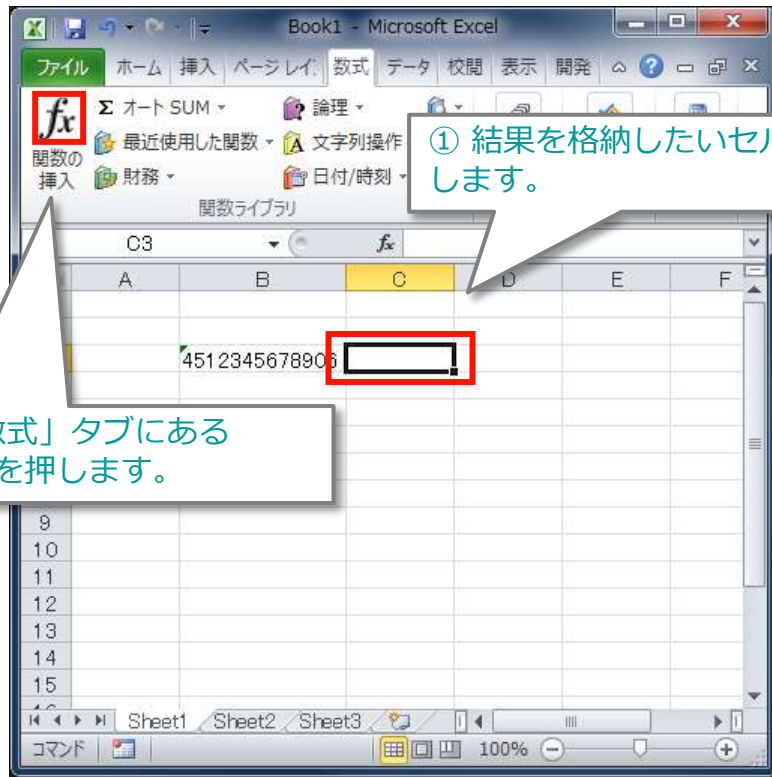
CalcM10W3_9(CodeData as Variant) As String

引数 : CodeData チェックデジットを含まないコードデータ

戻り値 : チェックデジット文字

■ 4.3 アドインによるチェックデジット検証

【使用例】 入力されたJAN13データのチェックデジットM10W3のチェックをおこなう。

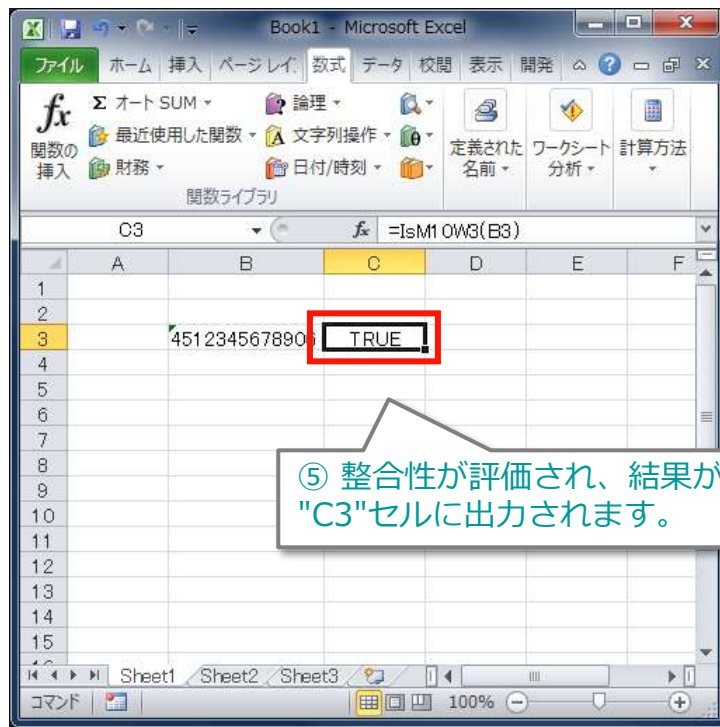
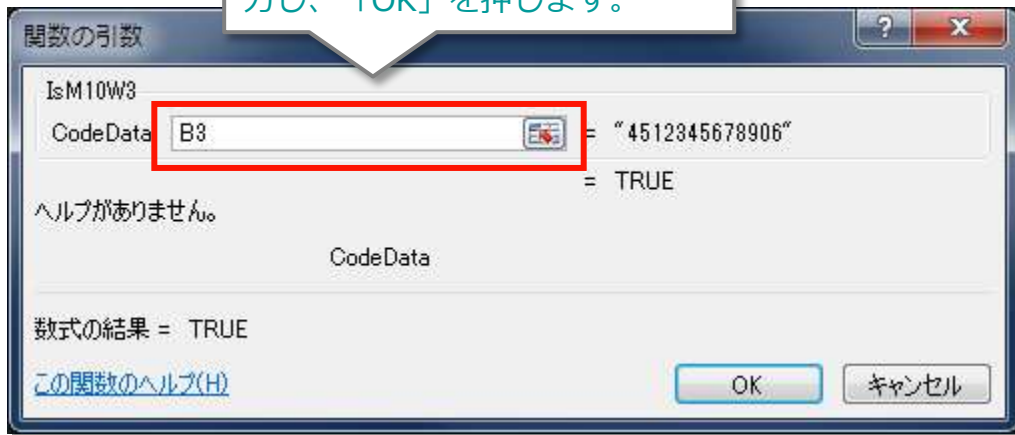


③ 「ユーザー定義」から「IsM10W3」を選択し、「OK」を押します。



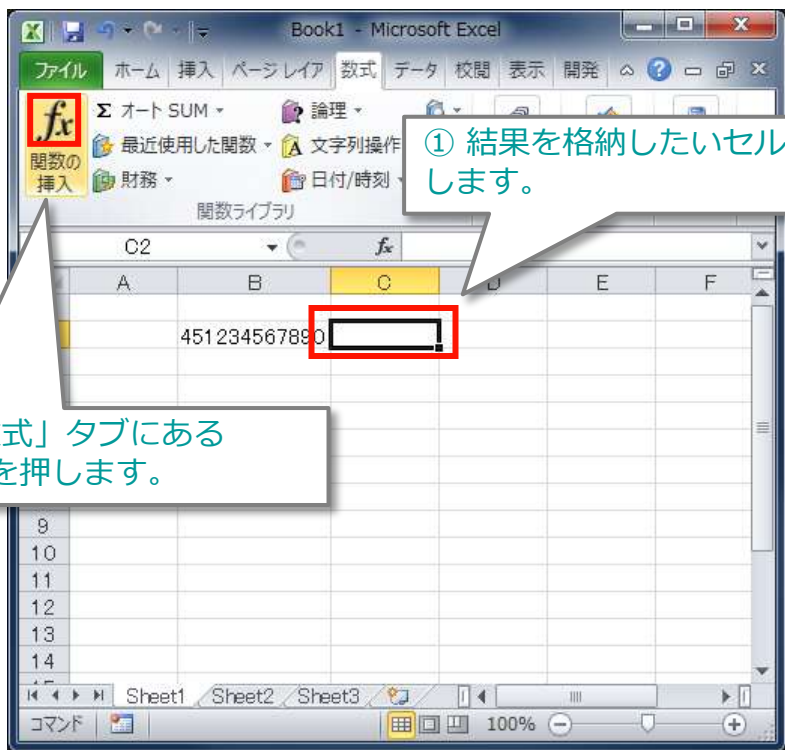
■ 4.3 アドインによるチェックデジット検証

④ 整合性をチェックしたいデータの入力されたセル名"B3"を入力し、「OK」を押します。



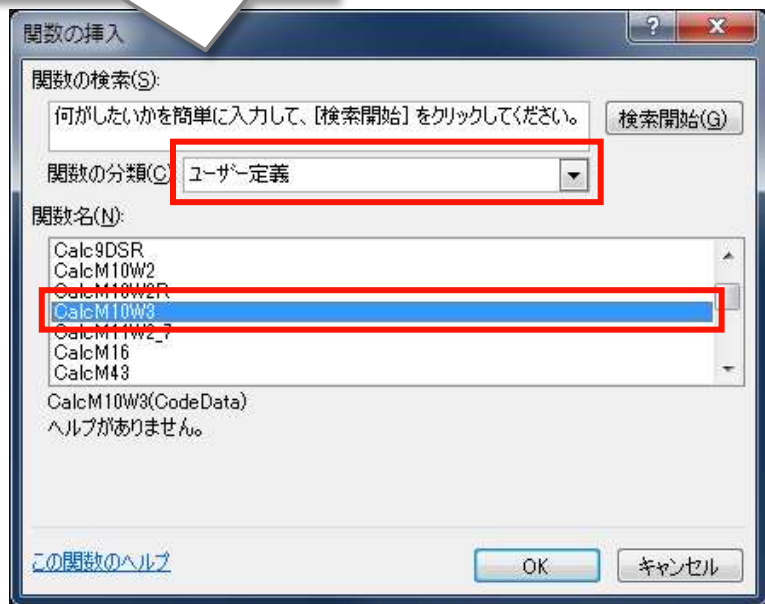
■ 4.4 アドインによるチェックデジット計算

【使用例】 入力されたJAN13データのチェックデジットM10W3の計算をおこなう。



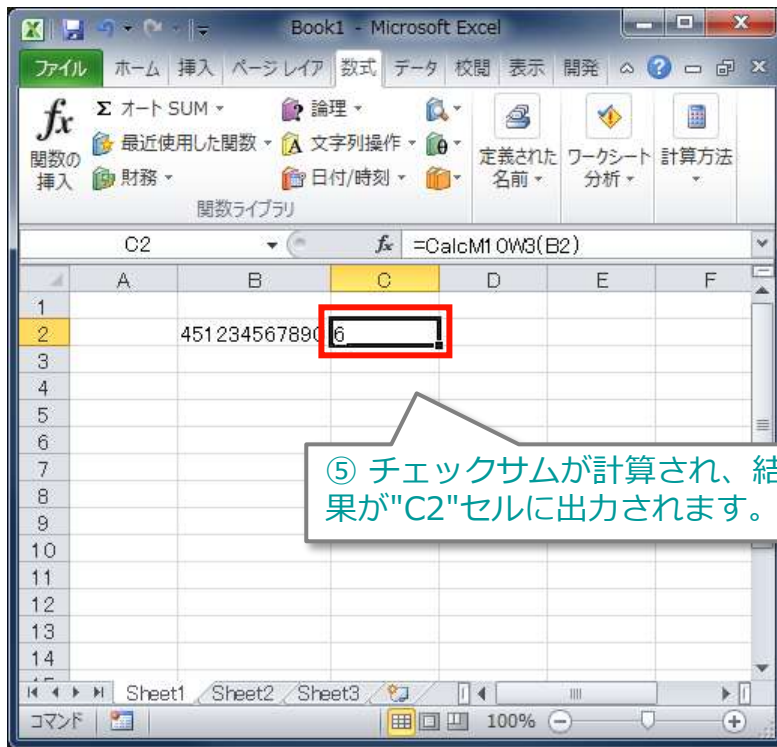
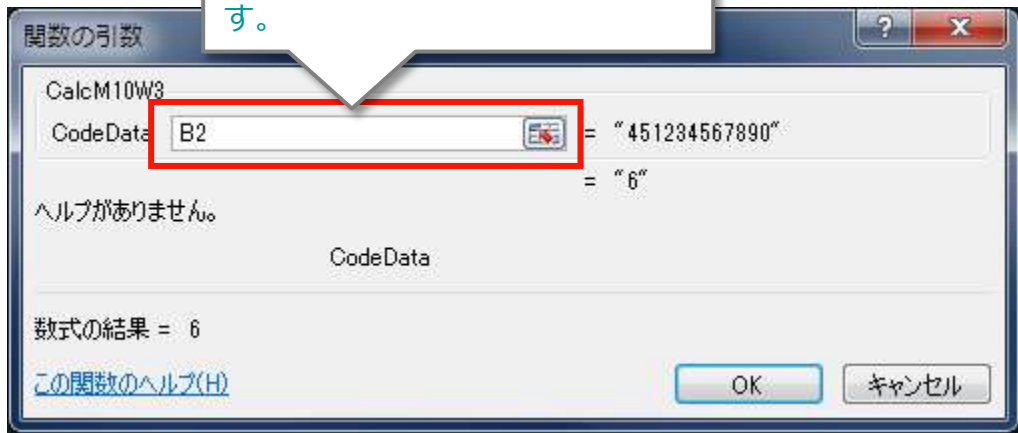
② 「数式」タブにある「fx」を押します。

③ 「ユーザー定義」から「CalcM10W3」を選択し、「OK」を押します。



■ 4.4 アドインによるチェックデジット計算

④ チェックデジットを計算したいデータの入力されたセル名 "B2"を入力し、「OK」を押します。



■ 5.1 トラブルQ&A

Q1. ライセンスを入力したのに制限が解除されないのですが…。

A1. ライセンスIDの誤入力と考えられます。英数字が入り交じっているためメーカーのフォント設定によっては0(数字の0)とO(オー)、1(数字の1)とI(アイ)などを読み間違える恐れがありますので、ライセンス発行メールに記載されているライセンスIDを直接コピー&ペーストして入力してみてください。

Q2. VBAにて異なる値のバーコードを連続印刷すると、同じバーコードが何枚も印刷されてしまうのですが…。

A2. VBAのループ処理にてバーコードデータを変更しながら連続的に印刷する場合はバーコードデータを変更したタイミングでDoEventsを数回呼出して描画を更新させる必要があります。(VBAによる制約です)
詳しくは同梱されたサンプル“VBA連続印刷.xls”をご確認下さい。

Q3. 1ページに数十個のバーコードを配置すると、CPU使用率が100%になり、EXCEL®が応答なしになってしまい使えないのですが…。

A3. ウイルス対策製品が原因の場合があります。EXCEL®/WORDには描画を高速化するためにシートの画像を一時的なファイルへキャッシュする機能があり、このキャッシュ処理の際に頻繁にファイルアクセスが発生し、同じタイミングでウイルス対策ソフトのリアルタイムスキャン機能によるウイルスチェックが行われるため、コンピュータの負荷が上昇してしまいます。対策としては、

- ① ウイルス対策ソフトの設定で、除外するファイルとして拡張子wmf、emf(メタファイル画像)のファイルをスキャンしないように設定する。
- ② 一時的にリアルタイムスキャン機能を停止する。 > 次ページへ

■ 5.1 トラブルQ&A

①、②いずれもセキュリティ上は好ましい対応ではありませんが、EXCEL®側の仕様のため、ESBarCodeでは対応することができません。また、同じコンピュータでも動作の軽いウイルス対策ソフトであれば全く支障ない場合もありますので、一度ウイルス対策ソフトを停止させてご確認下さい。停止させても症状が改善されない場合は、お使いのコンピュータのスペック(CPU処理速度やメモリ容量)が不足している可能性もあります。その場合は、1シートに配置するバーコード数を減らす、VBAのロジックを見直すなどの対応が必要になる場合もあります。ご自身で解決するのが困難な場合は、問題のあるファイルを添付※1、お使いのコンピュータのスペックを明記の上、support@exceedsystem.com宛にご送付頂ければ可能な限りで調査、対応をさせていただきます※2。

※1 影響の有無に関わらずマクロのパスワードは必ず解除しておいて下さい。
マクロのパスワードが設定されている場合は、調査をお受けすることができません。

※2 解決を保証するものではありません。

■ 6.1 ライセンス購入と価格

実際にお支払い頂く総額（総務省指定の総額表示）は以下のとおりです。※2012年9月現在

【重要】 法人のお客様の場合、インストールするコンピュータ1台につき1ライセンスが必要です。

お支払い方法	ライセンス単位	お支払い額
PayPal決済	1	本体2,200円（税込） = 2,200円
(株)ベクター シェアレジサービス	1	本体2,380円（税込） + シェアレジ 利用料224円（税込） = 2,604円
当方指定口座への直接振込	1	本体2250円（税込） + 各金融機関の定める振込手数料 = 2,250円 + 振込手数料
	10	本体2,125円（税込） × 10ライセンス + 各金融機関の 定める振込手数料 = 21,250円 + 振込手数料
	50	本体2,000円（税込） × 50ライセンス + 各金融機関の 定める振込手数料 = 100,000円 + 振込手数料

直接振込をご利用の際は、下記フォームを直接メールにコピーし、内容ご記入の上、register@exceedsystem.com宛にE-Mailでご連絡下さい。

内容確認次第、請求金額と入金方法を記載したご請求メールを返信させていただきます。

メール送信後、1週間以内にご入金が確認できない場合は、自動的にキャンセル扱いとさせていただきます。

<<請求書発行依頼メールフォーム>>

【お名前または会社名/代表担当者名】

【お買い求め頂くソフトウェア名とバージョン】

【お買い求め頂くライセンス数】

【住所または所在地】

【自宅または会社の電話番号】

【個人または会社のE-Mailアドレス】

【領収書の必要性に応じて“必要”または“不要”とご記入下さい】

※全て必須項目ですので必ずご記入下さい。

■ 6.2 ライセンス発行までの流れ

ご入金確認後、入金確認/ライセンス発行メールにて、ユーザーIDとライセンスIDを発送致します。入金方法によって処理プロセスが若干異なっており、主な違いは以下のとおりです。

【(株)ベクター様 シェアレジサービスでご入金の場合】

ライセンスIDは(株)ベクター様から発行されます。ユーザーIDに関して、ユーザー登録を頂いた場合のみ、事務処理後、エクシードシステムから発行されます。

ご購入頂いたソフトウェアをすぐにご利用頂く場合は、インストールプロセス中の「ESBarCode ライセンス登録」画面のライセンスIDのみを入力してインストールして下さい。ユーザーIDが到着しましたら「プログラムの追加と削除」からESBarCodeの「変更」にて、修復インストールを実行し、同プロセス中の「ESBarCode ライセンス登録」画面にてユーザーIDとライセンスIDをご登録下さい。

【PayPal決済、指定口座へのご入金の場合】

ライセンスIDとユーザーIDは事務処理後、エクシードシステムから直接発行致しますので、IDが到着しましたらインストールプロセス中の「ライセンス登録画面」でユーザーID・ライセンスIDをご登録下さい。

■ 6.3 ユーザー登録

2006年3月以降、個人情報保護の観点により(株)ベクター様のシェアレジサービスでご購入した際にお客様の情報が販売元へ送信されないようになりました。

現在、シェアレジサービスでソフトご購入をされた場合は、ユーザー登録は任意とさせて頂いておりますが、アップデートサービスやライセンスキーの再発行サービスを希望される場合はご登録いただきますようお願い申し上げます。ユーザーIDをお持ちで無い場合、アップデートサービスやライセンスキーの再発行サービスをお受けできませんので予めご了承下さい。

※PayPalまたは金融機関によるお支払いの場合は、自動的にユーザー登録(ユーザーID発行)扱いとなります。

ユーザー登録を希望される方は下記フォームをメールに直接コピーし、内容ご記入の上 register@exceedsystem.com 宛にご連絡下さい。

内容の確認次第、お客様のユーザーIDをメールにて送付させていただきます。

<<ユーザー登録依頼メールフォーム>>

【お名前または会社名/代表担当者名】

【ベクターレジサービスのお申し込み番号】

【個人または会社のE-Mailアドレス】

※全て必須項目ですので必ずご記入下さい。

■ 7.1 領収証発行の注意点

<< 領収証について：重要 >>

本ソフトウェアの購入については、現金授受の取引ではないため、原則として請求書の発行は致しておりません。オンラインで購入された場合、多くの場合購入手続き画面や購入完了確認メール等を印刷したものを、領収証の代わりとして利用できる場合があります。詳しくは御社の経理担当者様へご確認下さい。

■ PayPal決済によるお支払いの場合

PayPalの支払い完了ページの「印刷用受領証を見る」から印刷したものを、領収証に代えさせていただきます。

■ シェアレジ決済によるお支払いの場合

クレジットカードのご利用明細をもって、領収証に代えさせていただきます。

■ 口座振り込み

各金融機関が発行する振込証明書(振込の控え)をもって、領収証に代えさせていただきます。

※経理上どうしても領収証が必要な場合は、以下の条件付きで承ります。

- ・領収証に記載される金額は、本体代金（税込）のみとなります。
- ・ダウンロード販売という性質上、商品発送がありませんので、領収証の送料として別途80円切手をご送付頂く必要があります。(この送料分は領収額に含まれません。)
※同時ご購入ライセンス数が10ライセンス未満の場合のみ。
- ・後日の領収証発行依頼は原則お受け致しません。領収証が必要な場合は必ず事前に、“請求書依頼メールフォーム”に 領収証が必要な旨をご記入下さい。
- ・振込名義人と領収宛名が異なる領収証の発行はお受けできません。
- ・領収証の再発行は、一切お受けできません。
- ・郵便事故等による領収証・振込原本等の紛失が発生した場合、エクシードシステムは一切の責任を負わないものとします。高額領収等で別途要望があれば、配達記録、レターパック350等による発送も承ります。
但し、その際の往復郵送料はお客様の負担とさせていただきます。

予めご了承下さい。

■ 8.1 不具合報告・ご質問などについて

ソフトウェアご利用に関して、不具合や問題点が確認された場合は、エクシードシステムオンラインサポート宛にご連絡下さい。可能な範囲で対応をさせていただきます。

なお、不具合報告を送って頂く際には、以下の項目をできるだけ詳細にレポートして頂けると、不具合箇所の絞り込みや修正により早く対処することができます。

- ・ お使いのESBarcodeのバージョン
- ・ Windows®とOffice(Excel®/Word)のバージョン
- ・ コンピュータの機種名、スペック（CPU/メモリ/HDD空き容量等）
- ・ 不具合に再現性がある場合は、その手順・条件など。
- ・ 問題画面のキャプチャ画像等。

エクシードシステムオンラインサポート：

[http://www.exceedsystem.com/products/esbarcode/
support@exceedsystem.com](http://www.exceedsystem.com/products/esbarcode/support@exceedsystem.com)

■ 9 各社の商標等

インテル®は米国およびその他の国におけるインテル コーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

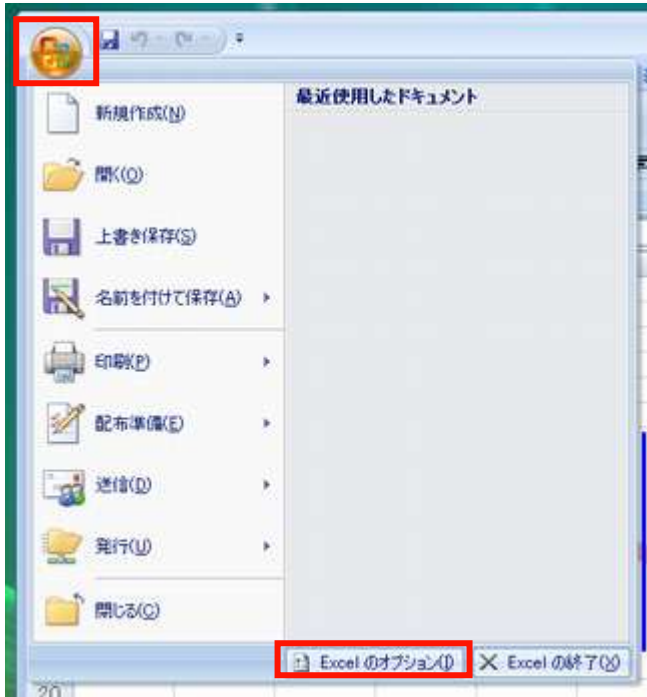
Microsoft®は米国およびその他の国における米国Microsoft Corp.の商標または登録商標です。

Windows®は米国およびその他の国における米国Microsoft Corp.の商標または登録商標です。

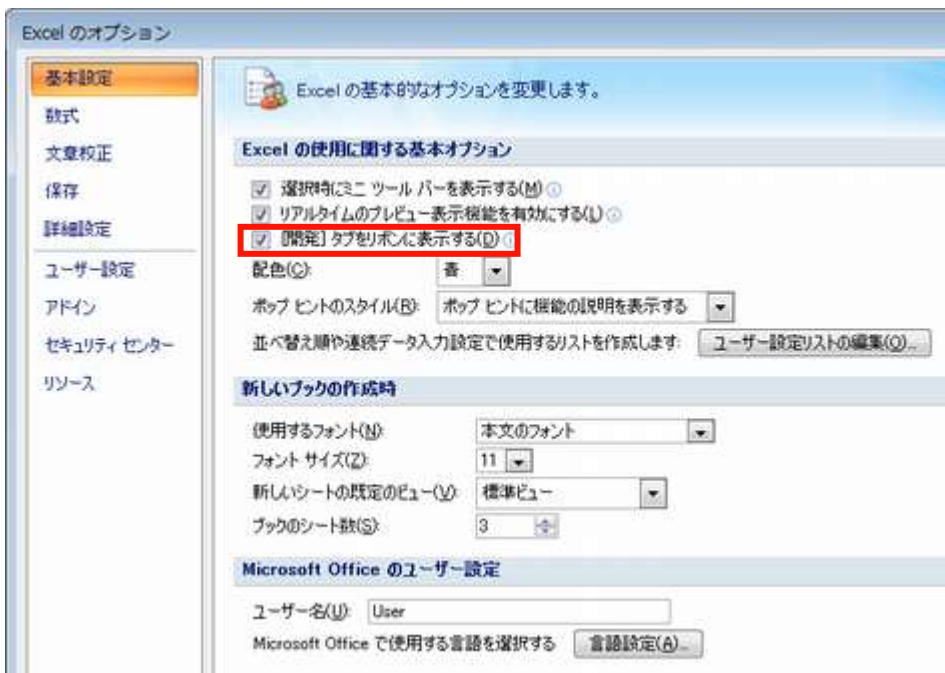
Excel®は米国およびその他の国における米国Microsoft Corp.の商標または登録商標です。

■ 10.1 Office2007でESBarCodeを使う

- ① リボン左上のアイコンをクリックして、表示されたメニュー下部の「Excelのオプション」を押します。

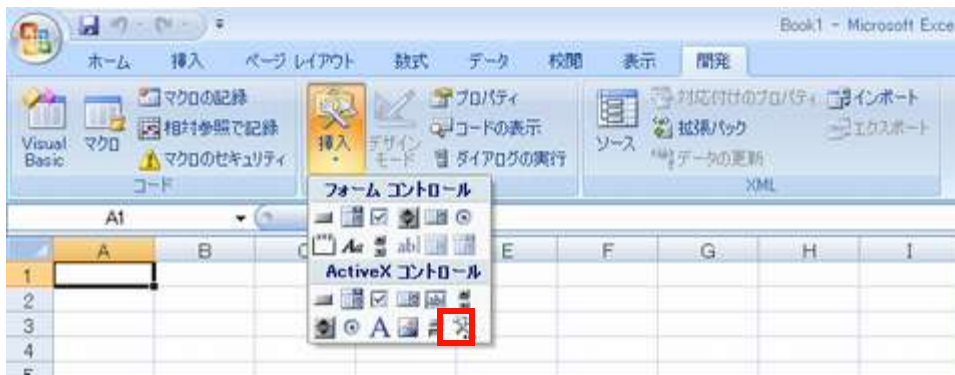


- ② オプション画面の「基本設定」タブページにある“「開発」タブをリボンに表示する”にチェックを入れて「OK」を押します。

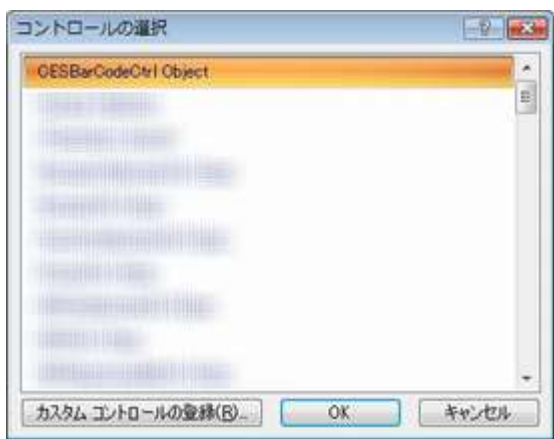


■ 10.1 Office2007でESBarCodeを使う

③ リボンの「開発」タブから「挿入」を押して「ActiveXコントロール」右下のアイコンをクリックします。



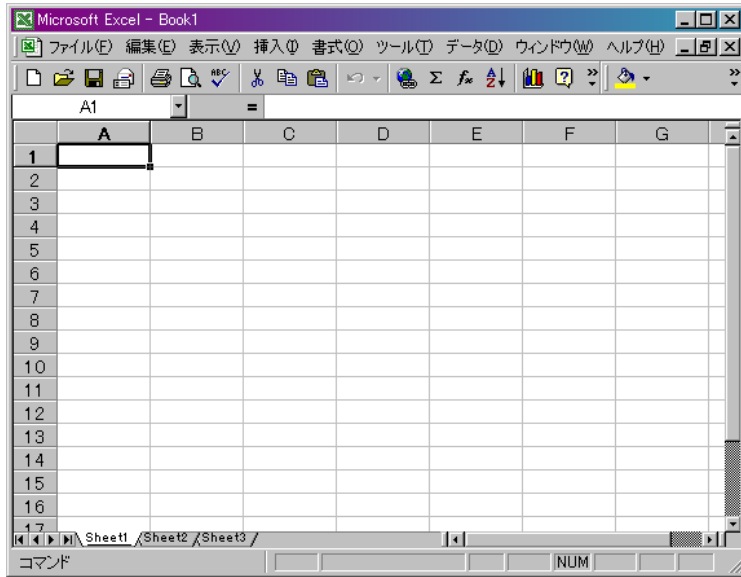
④ コントロール一覧から「CESBarCodeCtrl Object」を選択します。



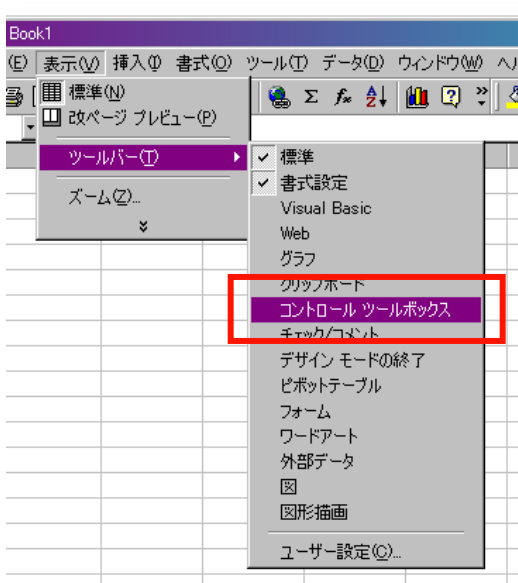
以降の作業方法は前述の「2.4 ExcelからESBarCodeを使用する」と同様となります。

■ 10.2 Office2000でESBarCodeを使う

① Microsoft® Excelを起動します。

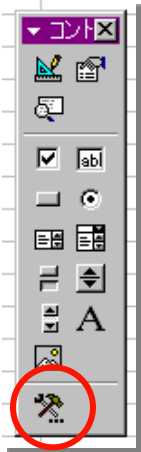


② メニューの「表示」→「ツールバー」から「コントロールツールボックス」を押します。



■ 10.2 Office2000でESBarCodeを使う

③ ツールボックスの○で囲まれているボタンを押します。



④ コントロール一覧から「CESBarCodeCtrl Object」を選択します。



以降の作業方法は前述の「2.4 ExcelからESBarCodeを使用する」と同様となります。